

B-35 合織の洗淨による劣化について VI

高知大教育 西村久子

目的 今回はドライクリーニングに用いる溶剤による影響をみるを目的とした。収縮率，白色度変化，染色布の色相変化，加工剤（防水剤）の脱落状態などから測定した。また洗淨布に紫外線や熱による劣化促進を行い，その影響を検討した。

方法 溶剤は普通用いられる四塩化エチレン，三塩化エチレン，石油系のものを用い，また丈夫に+洗剤，+洗剤+水，の条件を加えた。洗淨モデル実験は500cc共栓三角フラスコに1:100の浴比で30℃の恒温振盪機にかけ1回20分，自然乾燥のサイクル10回繰返した。染色布はナイロンに酸性染料，アセテートに分散染料，羊毛に酸性媒染染料を用い常法で染色した。尚試布はナイロン平織，アセテート平織布に羊毛，木綿平織布を加え用いた。白布および染色布は東芝分光色彩計SC-1型で表面反射率および色差を測定し比較した。収縮率は面積変動率として表現した。防水剤は市販されているシリコン系，弗素系，パラフィン系，カチオン系のもの²を処理しその撥水性から溶剤の影響をみた。また退色試験機に100時間照射，スコッチテスターによる熱接触により劣化促進を行い，その強弱度変化や反射率低下などと比較した。

結果 表面反射率では羊毛は低下の傾向にアセテートは上昇の傾向を示した。ナイロンは条件により傾向が異なった。溶剤の条件間における差異はあまりみられなかった。染色布はアセテート分散染料染色布が影響を多くうけ，他の変動は少なかった。溶剤ではトリクレンによる退色が著しかった。収縮は水洗淨に比べ変動率は少く，防水布の撥水性の残布率は水洗淨に比べよい結果を示した。